

新宮山彦ぐるーぷ第2124回

21世紀の森く東屋岳間の奥駈道巡視・整備と 3ヶ所に靡看板設置

◇実施日… 2021年4月11日(日) 晴

◇参加者… 沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、豊嶋寛、大江加予子・

徳子、岩本信行、高階美根子、梶野照雄、大門健一

10名

新宮から46km、一時間で21世紀の森に到着した。西宮市から参加の大門さん、堺市の梶野君は早朝に出発され、すでに到着していた。程なく岩本、高階さんも着き全員集合。



登山口を出発



香精山の靡看板設置



大江、大門、高階の3車はいずれも新車である。沖崎、梶野、大江の3台で奥駈道石柱のある上の登山口まで乗り入れた。

今日は靡3個所に看板を設置するので、看板、杭、工具等を一人一個ずつの運搬をお願いするつもりだったが、豊嶋さんは杭2本を手にしてご自分のザックに縛り付けていた。

本日の参加者の中で最高齢、85歳とは到底信じられないパワフルさだ。春季巡視コースの中でも標高差が700m近くあって、厳しい登りが続くが、いやはや“すごい”の一言だ。



押返しの靡看板

登山道に案内標識

8時30分過ぎに登り始める。塔の谷峠を挟んで急登が続き、喘ぎながら、貝吹金剛の上まで登ってきた。ここまでに倒木は一本も無く処理に時間を要することがなかったので、ほぼ標準に近いタイムで進んでいる。

香精山手前の30番鉄塔付近が伐採されて展望が良くなっていた。好天に恵まれたので眺めを楽しみながら休憩する。暑くも無く、寒

くも無く、座っていると疲れも忘れる。

香精山に着き、山頂に靡看板（第13靡 香精山）を設置、ここに香精山は3等3角点・1122mで「細貝記」に「香精水あり」という追記があつて、深仙宿の香精水と同様の貴重な霊水が湧いていた、と思われる。山名もこれを起源としているようである。

香精山から北上して第14番靡 押返し に着く。森沢さんの大峯75靡には、明治維新以後に選択されたと思われる靡と記載され「大峯75靡奥駈修行記」に“順峰修行之時、熊野ヲ押ミ返スヨリ言フ成”と記されているとのことである。



菊ヶ池の靡看板

登山道に案内標識

押返しの靡看板設置を終えて、次の第15番靡 菊ヶ池に移動する。この間は距離30mほどで、すぐお隣だ。菊ヶ池は登山道の東側で、4〜5m登った小さなピークにある。そのため見落としやすく、登山者はその存在に気付かない。奥駈行の行者さんでも素通りしてしまうことが多いようだ。

以前、椎木さんと話している時に“菊ヶ池”が話題になり、登山道沿いに看板が必要ということで、押返しと菊ヶ池の2ヶ所の登山道に案内標識を設置した。

大峯75靡で「池」が付くのはこのこと「小池宿」の2ヶ所のみで、こんな尾根に池があつたのが話題になったが、古文書では役行者がこの池に向かって蔵王権現の出現を祈ると、たちまち憤怒の姿が現れたという伝承も伝えられているようだ。

現在の登山道は、菊ヶ池の小さなピークの北西側を捲いて付けられているが、元々の奥駈道は菊ヶ池のピークを越えていたと思われるので、付近を掃除してピークを通過する道を整備した。



本日の参加者

東屋岳に向かう

東屋岳までも異常なし

12時を少し過ぎていたので、ここで昼食。食後、沖崎と女性3名はここより下山、残りの男性6名で東屋岳までの巡視を行う。東屋岳までは10分ほど、この間も新たな倒木は無く、登山道にも異常は無かった。

これで行仙宿から玉置山までの巡視は完了した。4人で先行下山するもすぐに6人に追いつかれて合流、児嶋さんは帰路でもスプレーや赤ペンキ、赤テープでマーキング。持参のトラロープで道迷い防止作業に忙しい。



赤テープでマーク

トラロープを張る

下山

チェンソー持参の梶野君は倒木がないので、殆ど出番がない。順調に下山を続けて、午後3時半過ぎに登山口に戻った。

今日までに巡視を終えた区間では、倒木無し、登山道の崩れ無しだった。靡看板も36枚中、あと8ヶ所を残すだけとなって先も見えてきた。これも皆様のご協力あつてのことと、感謝申し上げます。残りは（水呑宿、玉置山、東屋岳、奥守岳、蘇莫岳、大日岳、五角仙、聖天の森）

気温の急激な変化が原因か、年齢を重ねたことが原因か、最近体調を崩す会員が続出しています。どうぞ皆さん、無理せずご自愛ください。

（記：沖崎、写真：梶野、岩本）

行動タイム

08：35 登山口→08：51 古屋の辻→09：56 塔ノ谷峠→10：09 貝吹之野→11：05 香精山→11：50 押返し→12：09 菊ヶ池 12：50→12：56 東屋岳→13：30 三〇番鉄塔→13：43 香精山→14：31 貝吹之野→15：29 古屋の辻→15：38 登山口